

森林が貢献できること 成長の旺盛な若い森林を造成
(CO2 吸収量の確保) 大気中の炭素を長期間保存 (CO2 排出量の削減)

行政視察報告

市民の会

日時 2024年10月21日～22日

場所 岡山県、新見市・真庭市

視察趣旨 森林は大気中の二酸化炭素を吸収・固定し、温室効果ガスの吸収源として地球温暖化の防止に貢献している。又、森林から生産された木材を建築物等に利用することで、炭素の長期的な貯蔵や建築時の二酸化炭素の排出削減に貢献する。さらに、樹皮やのこ屑をエネルギー源として利用することで化石燃料を代替することになる。2050年のカーボンニュートラル(温室効果ガスの排出を日本全体でゼロにする)達成のためには、二酸化炭素を削減するとともに、二酸化炭素の吸収量を確保することも重要であり、「森林資源の循環利用による林業の成長産業化」への取り組みを新見市・真庭市に学びたい。

とりわけ真庭市においては、間伐材や製材から出る端材といった未活用の木材を活用し、2015年から「木質バイオマス事業発電所」を稼働している国内を代表する自治体であり、見学者が大変多く現地視察がかなわず、木質バイオマス発電はデスクワークとし、「公共施設リノベーション事業」について真庭市中

中央図書館の現地視察を行った。

文責 小林雄二

新見市「森林資源の循環利用による林業の成長産業化」について

新見市は2005年（平成17年）に（旧）新見市・大佐町・哲多町・哲西町が29合併して誕生した。面積は793.29 km²、人口26,216人（R6.6.1）議員定数16人である。北部は中国山地、南部は吉備高原のそれぞれ一部を成す。北は鳥取県に、西は広島県に接し、3つの県が三国山で接している。

新見市の総面積は、岡山県の $\approx 11\%$ を占める79,329haとなっており、市全域が中国山地の脊梁（せきりょう）地帯に属する起伏の多い地形で、その $\approx 86\%$ を森林が占めており、とくに北部地域は人工林率が高い典型的な山林地帯となっている。森林面積は、令和5年度時点で68,391haとなっており、岡山県の森林面積の14.1%を占めている。また、森林面積に占める国有林面積は、令和5年度末時点で9,251haとなっており、岡山県内で最も広い面積を有している。

民有林面積は、令和5年度末時点で59,140haとなっており、森林面積の86.5%を占めている。また、民有林面積に占める人工林の構成比は53.7%、天然林の割合は44.4%となっている。

所管

「森林資源の循環利用による林業の成長産業化」に向けて、森林環境税贈与税の活用をメインとして、森林・林業の現状を分析され、新見市の森林ビジョンの基本目標が策定され、基本目標①「多面機能が持続的に発揮される森林づくり」②「森林資源の循環利用による地域づくり」③森林・林業を担う人づくり・体制づくりが議論され、「森林環境税贈与税の活用状況」が毎年度総括されて次の展開へと進んでいくということが、担当課だけでなく、全市を挙げての取り組みだとは思いますが、新見市産業部林業振興課のリーダーシップに敬意を表したい。

また、木質バイオマス利活用分野において、新見市木質バイオマス安定供給事業（令和元年度から）において、木質資源安定供給協議会運営管理の広域木材流通システムを介した真庭市へのバイオマスチップの供給体制の構築もバイオマス発電の安定的運転に欠かせない取り組みではないかと思う。

真庭市「公共施設リノベーション事業」について

真庭市は岡山県の北中央部に位置し、鳥取県と境を接する市であり、2005年（平成17年）上房郡北房町・真庭郡勝山町・落合町・湯原町・久世町・美甘村・川上村・八束村・中和村が新設合併し発足した。

面積 828.53 km²、人口 41,149 人(R6.6.1)、議員定数 24 人である。

森林面積は 65,422ha(林野率 79%)、民有林 58,801ha 人工林 33,925ha(人工林率 57.7 %) となっており、県平均の人工林率 37.7%を大きく上回っている。

今回、真庭市中央図書館の現地視察・公共施設リノベーション事業についての視察を行った。

真庭市立中央図書館は1980年に庁舎として建設され、築41年が経過した地上3階の鉄筋コンクリート造の建物をリニューアルした建物である。

町村合併により、庁舎としての役割を終え、2015年に市内に分散した図書館及び分館をつなぐために、余っている旧庁舎の建物を中央図書館に再生することが決定した。その後、長期にわたって利用されることを前提に外観を維持更新しながら、耐震補強を施し、2018年に図書館としてリニューアルオープンした。BELCA 賞（1991年にロングライフ化に寄与することを目的として設けられた既存建築物に対する表彰制度）を受賞している。

真庭市は、平成26年に「真庭バイオマス産業都市構想」を想定し、バイオマスエネルギーの利活用を強力に推進しており、市内において木質バイオマスボイラのペレットの製造、加工、販売、運搬の一連のインフラも構築している。

真庭市中央図書館においても空調設備に木質ペレット炊吸収冷温水器を採用し、31.7 t のCO₂削減を実現している。

地方都市において既存ストックの有効活用は喫緊の課題であり、余剰となった公共建築物を活用可能な資産として、市民サービスや利便性を向上させる施設として活用することが長寿命化建築の一例として評価されている。

所管

真庭市においても、平成29年3月に「公共施設等総合管理計画」が策定されている。

平成の大合併により誕生した真庭市では、旧9ヶ町村がそれぞれ整備した数多くの故郷施設等を引き継ぎ、5万市民の大切な資産として活用されてきている。

真庭市中央図書館の現地視察で感じたのは、①「古い建物を再生して使う」旧い庁舎を図書館として長く利用するために、用途・目的に合わせて躯体を積極的に改修する。②「広場のようにみんなに開いた図書館」従来の図書館機能に加えて、だれでも気軽に立ち寄ることの出来る広場のような図書館を整備する。本を借りるだけでなく、散歩の寄り道や井戸端会議、放課後の学習、子育て、観光、展示、講演会など様々な活動が行える多様な場を持った図書館とする。③「観光となる図書館」この施設は、勝山町並み保存地区に位置することから、観光ルートの拠点となり、観光に訪れた人々の情報提供ラウンジや休憩所を整備し、新しい観光拠点として図書館を位置付ける。④「子供から大人まで楽しめる図書館」バリアフリー化、ユニバーサルデザインを取り入れた施設計画で誰でも利用しやすい図書館。⑤「木でつくる温かみのある図書館」木に囲まれた優しく温かみのある図書空間の実現。木質ペレットなどのバイオマスエネルギーを使った空調設備を導入することで環境にやさしい持続可能な施設整備とする。

以上のようなコンセプトが徹底されていました。

人々が集う施設にと考えるとき、あらためて「古い建物を再生して使う」「だれでも気軽に立ち寄ることの出来る広場のような図書館」「環境にやさしい持続可能な施設整備」といったコンセプトが大切になってくるのではと考えさせられた。